



静波会だより

発行
和歌山県立海南高等学校
全日制海南校舎
静波会広報部
和歌山県海南市大野中651
TEL 073(482)3363
FAX 073(484)2346

**優勝 赤ブロック
(3D・2E・1E)**

9月24日(木)、台風の影響で天候が心配される中、今年も興奮・感動の体育祭が開催されました。5ブロック(赤・黄・黒・青・緑)対抗で行われ、白熱の競技の末、赤ブロック(3D・2E・1E)が見事優勝の栄冠を勝ち取りました。



ブロック対抗リレー



タイフーンリレー

赤しか勝たん!!

赤ブロックの一・二年生は、学年別対決の8の字縄跳びでともに一位という素晴らしい記録を出してくれた。その大きな力と勢いをもらい、僕達三年生も苦手だった8の字縄跳びで二位という好成績を収め、赤ブロックが逆転で総合順位トップに立つことができました。最後の種目・ブロック対抗リレーを迎えた時、赤ブロックと二位の黄ブロックの得点差はわずか九点で、一つの順位差で優勝かどうかが決まる状況でした。リレーでは三学年の素晴らしい走り了一位となり、その瞬間ブロック総合優勝が決まりました。優勝できたのはみんなが団結できたからだと思います。赤ブロックの3D・2E・1Eのみなさん、ありがとうございました。

(団長 藤川 奨太)



玉入れ



8の字縄跳び



玉入れランナー



障害物競走



クラブ対抗リレー



綱引き



段ボールタワー



クラス対抗リレー



文化祭

9月17日(木)・18日(金)

9月17日(木)・18日(金)、文化祭が開催されました。
今年のテーマは「As usual ～心は密に～」。
新型コロナウイルスの影響で多くの制約がありましたが、展示(1年)、
舞台(2年)、模擬店(3年)、有志・クラブ発表等、生徒達は準備から
本番まで全力で取り組み、今年も素晴らしい作品を作り上げました。

特別賞
1年C組

展示
「脱出ゲーム in USJ」



最優秀賞
2年E組

舞台「アラジン～ A whole 2E World～」



「時には冒険しなくっちゃ!! ジャスミン」

「さあーいよいよ始まるぞー。みんな楽しんで行こうぜ。」私はジーニーの姿をして今か今かと待っていた。みんな同じだっただろうか。緊張よりも笑顔の方が勝っていたような気がする。いろいろな角度からのスポットライトを浴びる。演じていてとっても楽しかった。さらに、いろいろなところから聞こえる手拍子。本当に気持ちがいいシーンだった。アラジンもジャスミンもジャファーも。それぞれの思いを持ちながらその場に立っていたと思う。そして、結果発表の時。「2年E組!!」それを聞いた時思わず涙が出てしまった。みんなずっとずっと頑張っていたのだから。私はこう思う。「みんな最高の友達!!」

(代表 堀田 真那斗)

優秀賞
1年D組

展示「まわろう 1D の森」

「協力から得られた経験」

私達1年D組はまわるコーヒーカップを作りました。何をどうしていいかわからず、他県の先生方に電話をして助言や資料をいただくことから始めました。そして、1Dならではの設計図を作りました。文化祭一週間前によくすべての材料が揃い、三日前から組立て始めました。材料に余裕がなく、失敗は許されない状況でしたが、クラス全員で協力し時間内に完成させることができました。当日、たくさんの人に楽しんでもらうことができ、また、優秀賞に選ばれたことをうれしく思います。そして、やれば何でもできると思えるよい経験になりました。

(代表 九鬼 那柚)



優秀賞
3年E組

模擬店「参伊堂」

「苦難を乗り越えて」

今年の文化祭では、新型コロナウイルス感染症の影響で、模擬店で販売できる商品に多くの制限がかかった。自分たちのクラスではなかなか案が出ず、準備の段階から大変だった。また、出し物の人力車を作るにあたっては、限られた人数でほぼ毎日のように放課後遅くまで残り、作っては壊れるを繰り返した。それでもクラス全員がそれぞれ役割を果たして、限られた時間の中でも頑張ったからこそ文化祭の準備から当日まで充実していたし、みんなで楽しめたと思う。自分たちだけではなく、クラス、学年を越えて楽しんでもらい、優秀賞も取れた喜びや達成感は忘れられないと思う。3Eも参伊堂も最高だった。

(代表 平田 宗一郎)



本年度 紹介クラブ

- ①部員数
- ②活動日・時間
- ③活動内容
- ④主将・部長の言葉
(目標・抱負等)

女子バスケットボール部



- ①1年8名 2年6名 3年8名
マネージャー2名 合計24名
- ②平日は約3時間、休日は平日練習または練習試合など
- ③練習では、上級生と下級生で教え合い互いを高めあっています。大会前には他校との練習試合を積極的に行い、大会で1勝でも多く勝てるように頑張っています。
- ④私達はインターハイに出場することを目標として、戴添先生指導のもと、キャプテンを中心に日々練習に励んでいます。部旗には「一生懸命」という言葉を掲げており、その言葉通り、足を止めずに一生懸命走り続けることを努力目標とし、粘り強く、諦めない心を持ち続けられるよう、笑顔を忘れず互いに励まし合っています。先輩方から受けついで優勝という夢を叶えられるよう、全力を出し切り、応援してください。すべての方に感謝の気持ちが伝えられるように頑張りたいと思います。

(主将 上信 咲希)

テニス部



- ①1年15名 2年15名 3年18名
合計48名
- ②活動日は週6日で、水曜日が休み。
- ③校内練習では球出しやボレー・サーブなど、基礎的な練習をしています。各々の実力を高めるために日々頑張っています。外部コートを借りての練習では、ラリーなどの対人練習を多く取り入れ、実際の試合を想定した練習をしています。
- ④私たちは一人一人が目標を持ち、それを実現するために具体的にどうするかということ、部員全員で共有しています。先輩後輩に関係なく互いに褒め合い高めたいけるような部になりたいです。

(主将 後藤 兼誠)

書道部



- ①1年4名 2年6名 3年8名
合計18名
- ②活動日は毎週水曜日と金曜日、第2土曜日、3時間程度
- ③一人一人が展覧会や文化祭に向けての作品づくりに取り組んでいます。先生のアドバイスや、友達のアドバイスをもらい、より良い作品になるように頑張っています。
- ④私達書道部はみんな仲が良く、たわいも無い会話をしたり、自分の悩み事を聞いてもらったりしています。一人一人が楽しみながら一生懸命に努力し、少しでも良い作品を作り、賞を取れるように日々尽力しています。

(部長 林 優香)

文芸部



- ①1年3名 2年4名 3年8名
合計15名
- ②毎月中旬 木・金の2日間、放課後18時頃まで
- ③月に一回発行している部誌「Clear」の制作が主な活動です。印刷から製本まで、すべて自分たちで行っています。文化祭では、ラミネートカードの配布とカラー部誌、原画の展示をします。他にも、年に一度開催される俳句甲子園に出場したり、文芸部の交流会に参加するなど、学外の活動も盛んに行っています。
- ④共通した趣味の子が集まっている部活なので、先輩・後輩関係なく、楽しくお話ししながら活動しています。文化祭前は準備することが多く、とても大変ですが、無事に当日を迎えられると達成感があります。クラスに一冊部誌を置いているので、絵や文章などの文芸に興味のある人にはぜひ、手に取って読んでほしいです。私たちも、もっと多くの人の興味を持ってもらえるような部誌作りを目指してがんばります。

(部長 三枝 奈々葉)

を目指すのが難しいものですが、それぞれが自分の好きな音楽を、自分が思う音楽を大切にしながら、他の人の音楽にも沢山触れ、互いに高め合っていける部活であることができればいいなと思っています。

(部長 生駒 マリア)

校長インタビュー

笹井 晋吾 校長



海南高校に赴任された時の印象はどうでしたか？

生徒は真面目で素直だという印象を持ちました。学校は広々としていて自然もあり、グラウンドなどの設備も良く、この環境なら生徒も伸び伸びできるのではないかと思います。

学生時代、何かクラブ活動に所属されていましたか？

中学から高校まで卓球部でした。6年間続けたことで、今でも親友と呼べる友ができました。だから、生徒たちにも部活動を生懸命やって欲しいと思っています。汗を流して一生懸命クラブをする機会って今しかない。思いっきりやってもらいたいです。

クラブではないですが、中学時代に親友と二人で、四国と紀伊半島を自転車一周しました。学校の先生には危ないと言われましたが、責任を持つので行かせてやって欲しいと言ってくれました。今、教員になってみて、先生方の気持ちがよく分かりますが、そこで親がそんなふうに背中を押してくれたことがとても嬉しく、今でも自分の中で印象に残っています。

先生になろうと思ったきっかけを教えてください。

大学生の時に、留学生を受け入れるボランティアをしていて、英語にすごく興味をもちました。その時に、自分が発した英語が「伝わる」のだということを学びました。英語を教えるために外国から来日している先生が和歌山の県立高校にまだ一人しかいないという時代、その人と学生時代に交流することができ、よく

加太へ泳ぎに行きました。遊びの中で自分が何か言わなきゃいけない、けど伝えられない、そんな中で、一生懸命英語で伝えようと思いました。例えば、海へ潜るでしょ？ウニが見えたの！What's this?と聞かれるけど、ウニを英語で言えなかった。でもそれをなんとか易しい英語で説明できた時の感動は一生忘れられません。体験から学び、英語を使えたことが嬉しくて、英語の教員になりたいと思いました。それから、子供たちって将来社会を担っていく宝物ですよ。そういう子供たちの人格形成に携わることができると素晴らしい仕事は、教員をおいて他にはないと思います。

学生のうちにどんな力を身につけておけば社会に出たときに役に立つと思いますか？

コミュニケーション力だと思います。社会に出たら人間関係が大事になります。各教科の理解力も大切ですが、自分の意見を堂々と表明、発信できるような力がさらに必要になってくると思っています。

海南高校のここが素敵だと思うところはどこですか？

クラブ活動と生徒会活動が活発なところです。真面目に一生懸命にやっている姿を応援したいです。

今年は新型コロナウイルスが流行しましたが、学校として大変だったこと、今後どのような対策をお考えか教えてください。

学校のスタートが遅れたのが残念でした。状況が分からない中で慎重にもなりましたし、まだ油断はできないと思っています。

文化祭で一般公開が出来なかったり、体育祭で種目を限定して行ったりと、生徒たちには十分ではなかったと思います。保護者の皆さまにも生徒が活躍している姿を見てもらえればよかったのになと思っています。今後行事は大切なので最善を尽くした状態で行えればと思います。学校の対策で言えば、しっかりと消毒していただけにアルコールスタンドや送風機、検知用カメラを設置したり、非接触体温計も用意しています。できるだけ行事を行って生徒たちが安全に学校生活を送れるようにしていきます。

最後に、人生の先輩として海南高校生にアドバイスをお願いします。

何をやっても失敗はつきものです。高校生には若いので自分の好きなことをとことん追いつめてほしいのです。また、自分の目標を立てたら全力でその目標にぶつかってもらいたいです。その努力は決して無駄にはなりません。若い頃にしかできない事があるので思い切りチャレンジしてください。

『感謝とお詫び』



静波会 会長
岡本 和哉

日頃より、海南高校静波会活動にご理解とご協力をいただいている全ての方に、心より感謝を申し上げます。

二〇一九年十二月に発見された新型コロナウイルス（日本では二〇二〇年一月）が、今も尚、全世界に影響を及ぼしています。学校教育現場でも二ヶ月間の休校処置を始め、様々な感染拡大防止策を講じられていますが、現在も例年の状態に戻れていないのが現状です。この先のことを考えると、学校も社会全体もどうなっていくのか予想できない状況で、生徒も我々大人も不安が大きく存在していますが、その時々々の社会の動向に注視し、前を向いて進んでいくことをお互い考えていきたいものです。

静波会も例年の活動を大きく縮小してきたところであります。PTAとして十分な活動が出来なかったことは残念であり、申し訳なく思っています。この場を借りて深くお詫び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業本当におめでとうございます。高校生活を共に過ごした仲間をいつまでも大切に、それぞれの道をしっかりと見つめながら歩んで行って下さい。自分の将来像をしっかりと考え、追い求めつつ、社会の一員としての自覚と責任を果たすよう努めて欲しいものです。我々は、いつまでも皆さんの味方であり、そのためのサポートをし続けていきます。

最後に、今年一年間の静波会へのご理解・ご協力に感謝申し上げます、次年度以降も変わらず、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

学校説明会

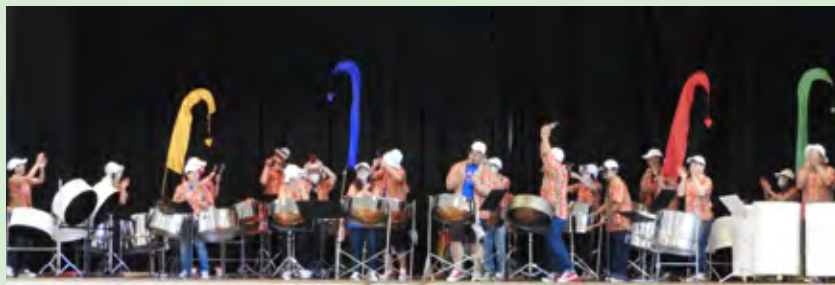
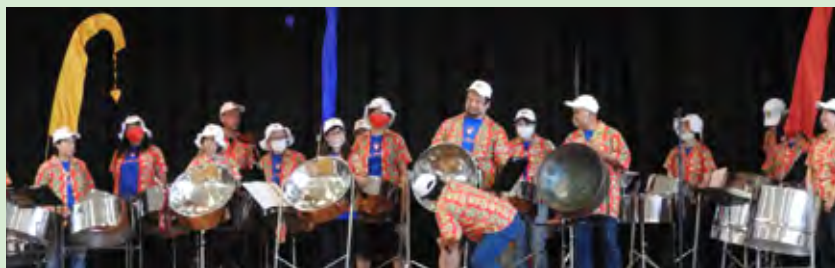


10月31日（土）、中学生428名を迎え、学校説明会が行われました。今年度は体験学習は実施せず、生徒会執行部の進行による全体会、1年生アシスタントによる校内クルーズ、クラブ見学を2回に分けて実施しました。

芸術鑑賞



10月20日（火）、「ワンハーツチールオーケストラ」による演奏を鑑賞しました。スチールパンという、ドラム缶を加工してつくられた打楽器でメロディーもベースも演奏するというもので、クラシックや新旧アニメソング、海南高校校歌などを中米の国トリニダード・トバゴの音楽をベースにアレンジして聴かせてくれました。



防災スクール



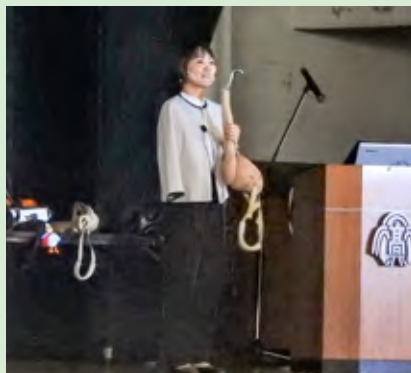
11月17日（火）大地震や自然災害に備えて防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的として防災スクールが実施されました。全学年避難訓練に加え、1年生は2年生SITP防災班の発表やクイズにより防災を学びマイトイレ作りを行いました。2年生は地理選択生による防災に関する発表を行いました。



平和・人権講演



11月6日（金）
「あきらめない心」
北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表選手であり、日本初の義手の看護師である伊藤真波さんによる講演とバイオリン演奏を聞きました。右腕を切断することになった20歳のときのバイク事故のことや、看護師専用の義手製作に取りかかり看護師としてはたらくまでのこと。そしてパラリンピックを目指すようになったきっかけや、現在の生活について話してくれました。



編集後記

昨年4月、新型コロナウイルスの感染拡大により全国に緊急事態宣言が発令され、学校も休校となりました。そして、さまざまな行事やクラブの大会が中止となる事態になりました。6月から学校は再開されましたが、いまだ以前のような生活には戻れない状態が続いています。

そんな中、9月には文化祭、体育祭が開催される運びとなりました。感染拡大防止のため例年通りにいかないことが多い中、いろいろな工夫がなされ、その中で子供たちが一生懸命競技している姿や楽しんでいる姿を間近で見せてもらい、見ているこちらが元気をもらいました。開催するにあたり、先生方のご苦労も大変なものだったと思います。しかし、今まで当たり前のようにできていたことができないという状況で、自分たちなりに考え協力し合い、成し遂げられたという経験は、子供たちにとってかけがえのないものになったことだと思います。広報活動を通じてそんな子供たちを身近で感じることができたこの1年は、私達にとっても貴重なものとなりました。

最後になりましたが、静波会だよりを発行するにあたり、ご協力頂いた先生方、保護者の皆様、役員の皆様に心より感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。（広報部一同）